

令和7年度

運営に関する計画

最終評価

大阪市立大江小学校

大阪市立大江小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (総括シート)

1 学校運営の中期目標

現状と課題

本校は、明治7年(1874年)に創立され、150年を超える歴史と伝統のある学校である。親子三代以上に渡って本校に通う地域の方も多く、保護者や地域の方々にとっても、本校に対する期待と誇りは非常に大きなものがある。長い歴史と受けつがれた伝統を引き継ぎつつも、新たな実践を取り入れながら未来を生き抜く子どもたちのために教育活動を展開している。

本校の児童の規範意識は高く、きまりや規則を守って生活しようと努力する態度が見られる。また、相手のことを考えた発言や行動ができる児童が多い。学力は比較的高く、真剣に授業を受ける姿が常に見られる。これらを維持していくことを必須ととらえている。

そのうえで、言語力を基盤に言語活動へ深化させ充実させていくことが本校の課題である。その課題解決に加えて、自ら問いを発見したり他者の考えと交流させたりしながら新たな価値を見出していく素養のある集団に育成していく。

また、児童数に対して運動場が狭い学校であり、意図的計画的に体力・運動能力の育成をしていく必要性もある。環境に左右されず、生涯体育の観点から自ら取り組み必要とする体力をつけていくことにも取り組みたい。

さらには、グローバル化が急速に進む現代にあって英語力の向上にも取り組んでいく。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- 校内の児童アンケート「自分には、良いところがある。」において肯定的に答える割合を90%以上にする。
- 校内の児童アンケート「元気に楽しく学校へ通っている。」において肯定的に答える割合を94%以上にする。
- 校内の児童アンケート「まわりの人にやさしくしようとしたり、ひとりである子がいないようにしたりしている」で、否定的に答える児童の割合を8%以下にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 校内の児童アンケート「学習で話し合う時には、自分からすすんで意見が言えた。」において肯定的な回答をする児童の割合を80%以上にする。
- 校内の児童アンケート「自分からすすんで学習に取り組めた。」において肯定的な回答をする児童の割合を80%以上にする。
- 校内の児童アンケートにおいて「体育の学習や、休み時間などに体を動かすことが楽しい」において肯定的な回答をする児童の割合を80%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- 全国学力・学習状況調査における「5年生までに受けた授業で、コンピュータなどのICT機器をどの程度使用しましたか」に対して「ほぼ毎日」と答える児童の割合を全国平均以上にする。
- 校内の教職員アンケート「日頃から学びたくなる仕掛けや体を動かしたくなる仕掛けなど、子どもたちがすすんで〇〇したくなる仕掛けづくりを心掛けている。」と肯定的に回答する割合を100%にする。

大阪市立大江小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (総括シート)

中期目標の達成に向けた年度目標 (全市共通目標を含む)

※運営に関する計画再掲

【安全・安心な教育の推進】

学校園の年度目標

- ① 校内の児童アンケートで、「自分には良いところがある。」において、肯定的な回答をする児童の割合を91%以上にする。
- ② 校内の児童アンケートで、「していいことと悪いことを意識して生活することができている」において、肯定的な回答をする児童の割合を94%以上にする。
- ③ 校内のアンケート「まわりの人にやさしくしようしたり、ひとりである子がいないようにしたりしている」で、否定的に答える児童の割合を6%以下にする。
- ④ 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を81%以上にする。
- ⑤ 年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。

※前年度不登校であった児童のうち不登校の状態が解消された、または不登校状態であっても次の1～3に該当しているなど、総合的な判断により不登校の状態が改善されたとする人数を把握

※改善とは、次の状態の場合をいう。(複数に該当する場合は、最も顕著な項目を選択する。)

1 出席人数の増 (学校内外で ICT 等を活用した学習活動を行うことによる出席認定を含む)

2 ICT の活用による、本人・保護者と学校がつながる回数が増えた。

3 養護教諭、スクールカウンセラー、教育支援センターなどが学校内外の専門的な指導・相談につながるようになった。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

学校園の年度目標

- ① 校内の児童アンケートで、「学校で学習することが好きである」、「自分から進んで学習に取り組めた」において、肯定的な回答をする児童の割合を昨年度と同等または向上させる。
- ② 児童が課題を見つけ、お互いに協力し主体的に解決していく「主体的・対話的な深い学び」を積極的に取り入れ、児童アンケート「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」において、肯定的な回答をする児童の割合を86%以上にする。
- ③ 読解力を高めるための読書指導や取り組みを進めていき、児童アンケート「本を読むことが好きである」において、肯定的な回答をする児童の割合を85%以上にする。
- ④ 校内の児童アンケートで、「健康や安全に気を付けて進んで体を動かすことができている」において、肯定的な回答をする児童の割合を80%以上にする。

大阪市立大江小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (総括シート)

- ⑤ 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を45.0%以上にする。
- ⑥ 小学校学力経年調査における国語及び算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる。
- ⑦ 小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。
- ⑧ 校内の児童アンケートにおいて「体育の学習や、休み時間などに体を動かすことが楽しい」において肯定的な回答をする児童の割合を92%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

学校園の年度目標

- ① 教職員アンケートの「授業において週に1回以上、学習者用端末を活用する」の項目で、肯定的な回答をする教職員の割合を85%以上にする。
- ② 教員の勤務時間の上限に関する基準を満たす教職員の割合を大阪市の平均以上にする。
基準1：45.3%以上 基準2：70.5%以上
※基準1…1か月の時間外勤務実績が30時間を超えないようにすること
※基準2…1か月の時間外勤務実績が60時間を超えないようにすること
- ③ 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。
- ④ 教職員の働き方改革に関する目標を設定する。
 - 年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合100%を維持する。
 - ゆとりの日を週に1回設定・実施する。
 - 「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準1（基準2）を満たす割合を77%（100%を維持）以上にする。

大阪市立大江小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【安全・安心な教育の推進】</p> <p>① 校内の児童アンケートで、「自分には良いところがある。」において、肯定的な回答をする児童の割合を91%以上にする。R6: 90.6%</p> <p>② 校内の児童アンケートで、「していいことと悪いことを意識して生活することができている」において、肯定的な回答をする児童の割合を94%以上にする。R6: 93.6%</p> <p>③ 校内のアンケート「まわりの人にやさしくしようとしていたり、ひとりである子がいないようにしたりしている」で、否定的に答える児童の割合を6%以下にする。R6: 6.8%</p> <p>④ 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を81%以上にする。R6: 80.6%</p> <p>⑤ 年度末の校内調査において、前年不登校児童の改善の割合を増加させる。</p> <p>※前年度不登校であった児童のうち不登校の状態が解消された、または不登校状態であっても次の1～3に該当しているなど、総合的な判断により不登校の状態が改善されたとする人数を把握</p> <p>※改善とは、次の状態の場合をいう。(複数に該当する場合は、最も顕著な項目を選択する。)</p> <p>1 出席人数の増 (学校内外で ICT 等を活用した学習活動を行うことによる出席認定を含む)</p> <p>2 ICT の活用による、本人・保護者と学校がつながる回数が増えた。</p> <p>3 養護教諭、スクールカウンセラー、教育支援センターなどが学校内外の専門的な指導・相談につながるようになった。</p>	B
<p>年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標</p>	進捗状況
<p>取組内容①【2 豊かな心の育成】</p> <p>クラス・学年内での友だちとの関わりやたてわり班活動など、様々な活動で他者とのかかわりを深めることにより、自尊感情を育むことができようにする。</p>	B
<p>指標 校内の児童アンケートで、「自分には良いところがある。」において、肯定的な回答をする児童の割合を91%以上にする。R6: 90.6%</p>	
<p>取組内容②【1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>不登校傾向が見られる児童の情報を共有し、その子に合った温かな対応を行っていく。また、保護者やSC、SSWなど関係諸機関とも連携し、一人も取り残すことなく、すべての児童とつながっていくこと、心を通わせていくことに努める。</p>	B
<p>指標 校内の児童アンケートで、「元気に楽しく学校へ通っている。」において、否定的な回答をする児童の割合を6%以下にする。R6: 6.8%</p>	

<p>取組内容③【1 安全・安心な教育環境の実現】 各学年、情報モラル教育を推進していき、情報の取り扱い方や規範意識を養うことができるようにする。</p>	B
<p>指標 校内の児童アンケートで、「していいことと悪いことを意識して生活することができる」において、肯定的な回答をする児童の割合を94%以上にする。R6: 93.6%</p>	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<p>【安全・安心な教育の推進】 (最終評価・記入欄)</p> <p>取組内容①【2 豊かな心の育成】(評価: B) 自尊感情を高める取組は各学級で実施され、「いいところ見つけ」「ぼかぼかことば」等の実践も見られた。肯定的回答は89.4%で目標91%に届かなかったものの、中期目標である90%に迫る結果となった。どの学級でもぼかぼかことば意識した取り組みや、肯定的な指導や支援に取り組んだことで高水準を維持することができた。一方で、既存実践以外の手立てを広げていくことが課題である。単発的な取組では根本的な向上につながりにくいため、年間を通した系統的な取組(成功体験の蓄積、言語化と振り返り、共有の仕組み)を学校として計画・実行できる体制づくりが必要である。</p> <p>取組内容②【1 安全・安心な教育環境の実現】(評価: B) 不登校児童・不登校傾向児童が増加する中、担任・養護教諭・SC等が連携し、保護者とも情報共有しながら個に応じた支援を行った。支援の体制は概ね機能し、学校とのつながりを保つ取組は進められた一方、「元気に楽しく学校へ通っている」の否定的回答は7.2%で目標6%以下には届かなかった。児童の多様化やSC稼働の逼迫も踏まえ、今後はケース会議等を核に「把握→協議→役割分担→支援→検証」を回す仕組みを整え、学校として解決に向けて動くシステムを確立していく必要がある。</p> <p>取組内容③【1 安全・安心な教育環境の実現】(評価: B) 情報モラル教育は年間計画に沿って実施してきたが、実践の記録・共有が十分とは言えず、取組の継続性や再現性が課題として残った。また、児童の理解は一定見られるものの、生活場面で行動に結びつかない事例があり、肯定的回答は93.5%で目標94%にわずかに届かなかった。今後は、年間計画に基づく指導を確実に行うとともに、授業・活動の記録を蓄積し、学年段階に応じた指導内容を整理して校内で共有する必要がある。あわせて専門家等の活用も計画的に位置づけ、具体事例をもとにした学びを通して、理解を行動として定着させる取組を強化したい。</p>

大阪市立大江小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>① 校内の児童アンケートで、「学校で学習することが好きである」、「自分から進んで学習に取り組めた」において、肯定的な回答をする児童の割合を昨年度と同等または向上させる。【R6: 学習が好き 82.1%、進んで学習 84.9%】</p> <p>② 児童が課題を見つけ、お互いに協力し主体的に解決していく「主体的・対話的な深い学び」を積極的に取り入れ、児童アンケート「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」において、肯定的な回答をする児童の割合を86%以上にする。R6:85.9%</p> <p>③ 読解力を高めるための読書指導や取り組みを進めていき、児童アンケート「本を読むことが好きである」において、肯定的な回答をする児童の割合を85%以上にする。R6:83.5%</p> <p>④ 校内の児童アンケートで、「健康や安全に気を付けて進んで体を動かすことができている」において、肯定的な回答をする児童の割合を80%以上にする。(新設)</p> <p>⑤ 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を45.0%以上にする。R6:44.7%</p> <p>⑥ 小学校学力経年調査における国語及び算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる。</p> <p>⑦ 小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。R6:82.2%</p> <p>⑧ 校内の児童アンケートにおいて「体育の学習や、休み時間などに体を動かすことが楽しい」において肯定的な回答をする児童の割合を92%以上にする。R6:91.3%</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①-1 【4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>児童が課題を見つけ、お互いに協力し主体的に解決していく「主体的・対話的な深い学び」を積極的に取り入れる。</p>	B
<p>取組内容①-2</p> <p>児童が多様な他者と協働する方法を理解し、思考力と表現力を身に付けるよう指導の手立てを工夫する。</p>	
<p>指標 児童アンケートを実施し、「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」に対して、肯定的な回答をする児童の割合を86%以上にする。R6:85.9%</p>	

※裏面に記入欄あり

<p>取組内容②【4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>学級文庫や図書室の整備、図書の時間の充実や読み聞かせなど本に親しむ機会を充実させ、本を読む楽しさ、本を読んだ達成感や成就感を味わえるような指導や取り組みを進めていく。</p>	B
<p>指標 児童アンケート「本を読むことが好きである」において、肯定的に答える児童の割合を85%以上にする。 R6:83.5%</p>	
<p>取組内容③【5 健やかな体の育成】</p> <p>体力・運動能力向上に向け、児童が進んで運動に取り組めるよう、楽しい体育授業づくりや運動環境整備を進める。</p>	B
<p>指標 校内の児童アンケートにおいて「体育の学習や、休み時間などに体を動かすことが楽しい」において肯定的な回答をする児童の割合を92%以上にする。 R6:91.3%</p>	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<p>【未来を切り拓く学力・体力の向上】 (最終評価・記入欄)</p> <p>取組内容①</p> <p>年度目標である児童アンケート「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」の項目で肯定的に回答した児童の割合は85.9%である。</p> <p>ペアやグループ、全体と話し合い形態を工夫して対話する機会を多く設けたり、学級会を計画的に実施したりすることで、児童の多くが考えを広げたり深めたりすることができたと考える。聞いた友達の考えの紹介や、考えの変容の振り返りなど、考えの変容の生み出す手立ての工夫も、児童の変容に結びついた。</p> <p>また、「自分からすすんで意見が言えた」の項目は78.1%であったが、毎時間発言機会を設けたり、発達段階に応じて話す・聞く時間を交互に区切ったり選択肢の中から選ばせたりすることで、「意見を言えた」「聞いてもらえた」という実感をもつ児童も増えている。一方、「自分からすすんで学習に取り組めた」における肯定的な回答は87.9%で、中期目標である80%を大きく上回ったので、目標は概ね達成したといえる。</p> <p>取組内容②</p> <p>年度目標の児童アンケート「本を読むことが好きである」の項目で肯定的に回答した児童の割合は85.5%で、目標値を上回ることができた。学級文庫の活用や、図書室の積極的な利用を継続するとともに、天王寺図書館からの図書の貸し出しや見学も行い、本に親しめる機会を多く設けた成果であると思われる。加えて、図書委員会や図書係による本の読み聞かせや、紹介など、児童主体の創意工夫ある活動も効果的であった。保護者アンケートの「お子さまは、読書に親しんでいる」の項目でも肯定的な回答が増えるよう、引き続き学校・家庭が協力して本に親しむ機会を作っていけるようにする。</p> <p>取組内容③</p> <p>年度目標の児童アンケート「体育の学習や、休み時間などに体を動かすことが楽しい」において肯定的な回答をする児童の割合は89.8%で、中期目標である80%は大きく上回った。</p> <p>体育の学習で、がんばりカードや学習カードを取り入れることで、児童の意欲が高まり、楽しく運動に取り組む児童の姿も多くみられた。休み時間に外で元気に遊んだり、運動委員会の取り組みに積極的に参加したりする児童の姿も見られた。</p> <p>今後も児童の学力・体力の向上への取り組みを工夫し継続していく。</p>

大阪市立大江小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A:目標を上回って達成した B:目標どおりに達成した
C:取り組んだが目標を達成できなかった D:ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【学びを支える教育環境の充実】</p> <p>① 教職員アンケートの「授業において週に1回以上、学習者用端末を活用する」の項目で、肯定的な回答をする教職員の割合を85%以上にする。(新設)</p> <p>② 教員の勤務時間の上限に関する基準を満たす教職員の割合を大阪市の平均以上にする。</p> <p>基準1:45.3%以上 基準2:70.5%以上</p> <p>※基準1…1か月の時間外勤務実績が30時間を超えないようにすること</p> <p>※基準2…1か月の時間外勤務実績が60時間を超えないようにすること</p> <p>③ 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。</p> <p>④ 教職員の働き方改革に関する目標を設定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を90%以上にする。 R6:100% ○ ゆとりの日を週に1回設定・実施する。 ○ 「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準1(基準2)を満たす割合を77%(100%を維持)以上にする。 (R6: 基準1:76.47% 基準2:100%) 	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【6 教育DXの推進】</p> <p>1人1台端末の環境を生かし、各学年の発達段階に応じ協同学習支援ツールを用いた学習を実施する。</p>	
<p>指標 年度当初に校内活用ルールを明らかにするとともに、年間3回以上のICTに関する校内研修を実施し、「効果的なICT活用事例」の共有を図る。</p>	B
<p>指標 教職員アンケートの「授業において週に1回以上、学習者用端末を活用した授業を実施する」の項目で、肯定的な回答をする教職員の割合を85%以上にする。</p>	

※裏面に記入欄あり

<p>取組内容②【7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 ゆとりの日を月に1回設定・実施する。さらに、学研の日（ゆとりの日扱いとする）は18時退勤の取り組みを進める。</p>	B
<p>指標 時間外勤務実績 60 時間以上の教職員の割合 0%を維持する。</p>	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<p>【学びを支える教育環境の充実】</p> <p>(最終評価・記入欄)</p> <p>① 教育DXの推進 教職員アンケートの「授業において週に1回以上、学習者用端末を活用した授業を実施する」の項目で、肯定的な回答をする教職員の割合が79.2%と目標(85%)に達しなかった。 ICT支援員と連携した教職員研修を年3回実施し、「大江タイムでの活用など使用する場面が確実に増えた」や「支援員との連携で意識が向上した」との声が聞かれた。一方で、授業での日常的な活用(日別活用率)には依然として学級間の差が見られる。「個人のスキルに差がある」「C a n v a や生成A I等の活用は個人に委ねられている」といった課題も見られ、効果的な実践事例の共有が求められている。 児童は、新しい端末の導入に伴い、授業中だけでなく日常的に活用する場面が増えてきている。児童の「学習でタブレットを使うことが楽しい」の項目で、肯定的な回答をした児童の割合は92.8%であった。</p> <p>② 人材の確保・育成としなやかな組織づくり 基準1 (1年間の時間外勤務が360時間を超えない(月30時間平均)、1か月の時間外勤務が45時間を超えない) 67.65%(34人中23人:昨年度の現時点75.76%) 基準2 (1年間の時間外勤務が720時間を超えない。(月60時間平均)) 97.06%(34人中33人:昨年度の現時点100%) 昨年度より時間外勤務の平均時間が21時間24分(R6)から23時間23分(R7)と2時間程度悪化している。(R7:大阪市小学校の平均23時間04分) 業務の平準化や業務や行事自体の精選(スクラップ)が課題として残った。 また、業務の効率化を再検討し、「ゆとりの日」や「学研の日」の確実な実施を進める必要がある。</p>